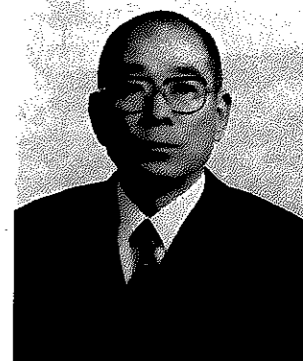


# 飛躍と充実へ手をたずさえて

年頭 所感 きびしさ乗り越え住みよいまちを



白根市長 吉沢正五

**白根市民憲章**

母なる信濃川に、はぐくまれた白根市民は先人の築いた大いなる遺産をひきつぎ、未来をみつめ、郷土の発展をめざす道しるべとして、ここに憲章を定めます。

美しい自然のあるまち  
 たがい助け合う しあわせなまち  
 文化とろうおいのあるまち  
 健康で働く豊かなまち  
 きまりを守り 明るく楽しいまち

私たちは、意見を出しあい、協力しあい、創意と工夫をこらし、市民としての誇りと希望にみちた、住みよいまちをつくります。

明けましておめでとうござい  
 ます。  
 一九八一年を迎え、市民のみなさまに、心から新春のお喜びを申しあげます。

母なる信濃川は、今日も変わることなく、滔々と流れ続けておりますが、その歴史のなかに広大な越後平野を形成し、白根市民をはぐくみ育ててきました。その雄大な自然に、いまさらながら感慨を深くいたしております。

私たちが、毎年、年始を祝うのは、情性にちりりながら、自らの心を戒めるためではないかと考えます。

私は、新春を迎え、自ら課したきびしい課題に向って、全力を傾ける決意を、新たにいたしました。

市政を担当し、市民のみなさんとともに考え行動をしてきて、本市の発展を顧みるとき、胸にこみあげる思いがいたします。市長として、その価値観を市

民に提唱し、コンセンサスを求め、心の奥に横たわる価値感の一致を図ることが、一番大切な役割だと考えてきました。

そして、試行錯誤をくり返すなかからたどりついたのが、昭和四十六年策定の「総合計画基本構想」であります。

本市の地域社会づくりの未来像は「健康と安全・美しい自然を生かした生活環境の形成」、「社会、文化の創造、福祉のしむわたる田園都市白根の建設」であります。これらは、決して目先の一過性のことではなく、永代性を追求する市民連帯の姿勢であります。

地方の時代が叫ばれる昨今、市民のみなさまを中心に、行政企業などが同一の価値観のもとで、より良い地域社会の建設を進めるための市民の道しるべ、まちづくりの規範として、五十四年六月市政施行二十周年を記念して、市民憲章を制定いたしました。

迎えました一九八一年は、国、地方を問わず財政的に、昨年以上にきびしく、本市におきましても、事業の実施などみなさまの要望に応えきれない面も、でていこうかと思っております。

しかし、内部管理体制の強化を図り、謙虚な反省と真摯な研究を積み重ね、市民のみなさまのご理解をいただきながら、昭和

- 六十年を目標とする「総合計画」の具体的展開を推進して行く所存であります。
- 1、地域環境の整備
  - 2、都市ガスの全市供給
  - 3、交通安全、消防施設の充実
  - 4、公園の整備
  - 5、土地利用計画の見直し
- 二、地方文化と教育の振興
- 1、義務教育施設の整備
  - 2、地域生活センター建設の推進と新しいコミュニティーシステムの確立
  - 3、伝統文化の振興
- 三、地域福祉と健康の増進
- 1、保育所の整備
  - 2、心身障害児通園施設の整備
  - 3、保健センターの整備
- 四、経済の地域化
- 1、地元企業、産業の育成
  - 2、地場生産物の消費と愛用
  - 3、第三次産業振興計画の推進
- 以上が、私の市政担当の考え方で重要施策であります。
- 着実な前進のためにも、私人がいくら力んでも、市民のみなさまをはじめ、職員一人ひとりの英知の結果と協力がなければなりません。
- 日ごろお寄せくださいます市民のみなさんの、心温かいご理解とご協力を感謝申しあげ、みなさまのご健康とご多幸を、心からお祈りいたします。

5人の方から今年の抱負・市への希望などをお聞きました。



伸びる芽 伸びるまち

「このまちの、瞳に映っている今日の白根市を、私たちの手から引き継ぐとき  
 このまちを、どこよりも美しく  
 どこよりも、住みよいまちにして、わたしてあげよう  
 このまちが、心に映っている今日の白根市を、自分たちの手で創りださぬことを」

「このまちの、瞳に映っている今日の白根市を、私たちの手から引き継ぐとき  
 このまちを、どこよりも美しく  
 どこよりも、住みよいまちにして、わたしてあげよう  
 このまちが、心に映っている今日の白根市を、自分たちの手で創りださぬことを」

## 地域スポーツ・文化の進展に青年の力を

総合体育施設の用地確保、造成がなされ一部利用できるようになりまし。一青年として喜んでいきます。スポーツ施設が少ない白根市です。一日も早い施設の完成を望みます。

昨年の十一月、東京で開かれた全国青年大会で、柔道チームが全国優勝を成し遂げました。白根市初の快挙に関係者一同、大変喜んでいました。これは、地域のみならずの指導や協力などによる成果が、実を結んだものと思います。

今日、多くのスポーツ、レク団体があり、活動しています。学校体育施設の開放や、総合体育施設の早期建設などで、市民のスポーツ熱も、ますます高まっています。

そのなかであって、地域のスポーツ・文化活動の中心をなす、われわれ青年の力をい一度集結していきたく思います。そして、りっぱな施設が市民のものになるために、底辺からの地域スポーツ・文化の進展、明るい地域づくりに、青年団の役割を感じています。



連合青年団副団長 田辺 忍さん

## 魅力ある商店街づくりに組織の確立強化

消費購買行動の多様化や、車を利用する消費者の増加にともない、都市対都市の競争合いが激しくなっています。このため、市外で買物をするという人が多く、市内の商店街をとりまく環境が、非常にきびしくなっています。

また、中型店同志の乱売や、大資本による大型店の出店などで、零細企業の地盤沈下現象が現実に出はじめています。

これらに対応し、魅力ある商店街にするために、各商店が消費者ニーズに応えるとともに、商店街の組織の確立強化を行っていかねばと思っています。

行政からも、市街地の駐車場問題や公園緑地、歩道の整備などを、より積極的に行ってほしいと願っています。

また、市外に勤める人が多く、昼間の人口が、夜間の人口に比べ少なくなっています。市内で働きたくても、それを受け入れられないのでしよう。今後は、市内に市民の働ける場所を確保し、産業の育成に努めてほしいと思います。



商店街連合会長 笹川幸市さん

## 力を合わせてきびしい農業情勢に対応

五十六年度の減反目標面積が先月の中ごろ各県別に配分されました。新潟県は二万四千二百の配分で、減反率は一五%弱。農政課の話だと、当市の減反率は約一七%ぐらいになる見込みという事です。今年もかなりきびしい状況です。転作するにしても、こう毎年だと何を作っていくかわからないです。でも、生産や労働配分などを計画的にやり、みんなで力を合わせ、きびしい農業情勢を乗り越えねばと思っております。

昨年、はじめて農青サークルと農政課との間で、農政問題について話し合う懇談会を開きました。今後、きびしい農業情勢に対応していくために、こういった話し合いの場を多くもちたいと思っております。

サークルができて十五年たちますが、まだどういうことをやっているのかを知らない農業青年が多くなります。もっとPRしていきたいですね。

農業技術の向上はもちろん、地域に還元する奉仕活動もやっていこうと思っています。



農業青年サークル会長 小林重之さん

## 明るい明日をめざし健全な家庭づくりを

日増しに醜さを浮きぼりにするロッキード事件、大型の脱税行為など本当にいやなことばかりです。

室内の温度は十八度以下に、資源を大切にとの呼びかけも、私たちの年代のものには、あまりピンとこないようです。物資に困った時代を経験しているためでしょうか。水道がはじめてひかれたときのうれしさ、もったいなささ……これもお金のおかげと思つたものです。でもいまは、電気料の大幅な値上げや物価の上昇などによる家計の赤字、困ったものです。

また、学校内の暴力事件で、その責任が家庭か、学校か、社会にあるかと問われています。過保護に育てられた子どもたちの悲哀が、私たちは他人事に思われませんか。まったく、想像のつかない時代に入っている気がしてなりません。

私たち家庭の主婦も、明るい明日をめざして、一人ひとりが学習の機会を得て、健全な家庭づくりの歩みを続けていかなければと思っております。



茨曾根地区婦人会会長 佐野千代さん

## 市民の情操を豊かにする施策を望みます

白根市は、市民の情操を豊かにする施策が、他市町村に比べ立ち遅れているようです。道路や下水道整備など、生活に密着したものを優先させているようですが、もっと市民が潤うものにも目を向けてほしいです。

たとえば、全国で二番目にオープンした麻資料展示室や民俗資料室。いつもカギがかかっています。見学しようとする、関係の所へカギを借りに行き、三階まであがらなければなりません。お年寄りや市外から来た人は、カギの借り方も知らないでそのまま帰ってしまうこともあります。温かい施設づくりに欠けていますね。

それに産業厚生会館。市民芸能祭などいろんな催し物が行われますが、観客はゴザ敷きで見るといふ旧態依然のありさまです。文化会館の施設を、一日も早く建設すべきと感じます。

中央公民館や市立図書館にしても、旧中学校の館に押し込められている状態です。財政難はわかりませんが、こういうところも考えるべきだと思います。



新聞記者 星野春夫さん